



脇本海岸 渚だより

NPO の FB ページ
<https://www.facebook.com/kamechidori>

N P O 法人
脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会
第 7 号（期間：2023 年 7～9 月）

ウミガメの今シーズンまとめ

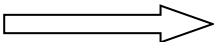
昨年より 8 日早く 5 月 26 日にウミガメの上陸が始まり、期待しましたが結果的には 5 回の上陸で 4 回の産卵に終わりました。昨年の 3 2 回上陸 1 7 回産卵に比べて大きな減少となりましたが、今年は孵化率が平均 8 5 % と昨年の 5 5 % に比べて高い結果となりました。今年の産卵巣は昨年より上部の深さが深く、巣穴もきれいに掘れていました。シーズン前に砂浜の産卵適地に生えた草木の宿根を除去したことが功を奏したものと思われます。今年から鹿児島水族館の協力も得て、ウミガメの生態について深く学び、巣の温度測定や孵化後の巣の掘り起こし調査を合同で行い詳細なデータの収集ができました。これらを来年の活動に生かしたいと考えます。（石澤）

回数	産卵日	場所	産卵 個数	孵化 数	孵化 率	孵化日と日数	残死タ マゴ数	死子ガ メ数	砂中生存 子ガメ数	調査日
1	5 月 26 日	21 番	95	72	76%	8 月 10 日（76 日目～3 日間）	23		9	8 月 12 日
2	6 月 17 日	22 番	127	115	91%	8 月 16 日（60 日目～3 日間）	11	1		8 月 28 日
3	7 月 6 日	24 番	131	108	82%	8 月 25 日（50 日目～5 日間）	23			9 月 4 日
4	7 月 22 日	31 番	90	80	89%	9 月 5 日（45 日目～8 日間）	7	3	1	9 月 12 日
計			443	375	85%		64	4	1	



4 か所目は堤防上の遊歩道まで乗り越え防風林脇に産卵
（卵を確認できなかったが孵化を確認した）

子ガメ脱出
の瞬間
（左と同じ場所
の夜 10 時半頃）



5 0 匹ほどが一斉に脱出。この巣からはその後も
数日間少しずつ脱出が続いた

折口駅で“ななつ星”お見送りイベント（8 月 1 9 日）

JR 九州のクルーズトレイン「ななつ星in九州」運行の 10 周年記念行事があり、脇小生 20 名とその父兄など総勢 50 名ほどを招待し、豪華列車を見送りました。久しぶりににぎやかな折口駅になりました。当 NPO が「ななつ星in九州」のお客様を毎週土曜日に、脇本海岸にお迎えして絶滅危惧種の保護活動などを紹介している縁があって、このイベントを支援しました。事前に草刈りやバスの手配など大変でしたが、イベント後の皆さんの笑顔に、やってよかったなと心から思いました。この様子は市の広報、南日本新聞に関連記事が載りました。



鶴翔高校で初めての「脇本海岸の自然保護活動の取組」講座開催

夏の終わりに鶴翔高校の「インターアクト・地域探究同好会」のメンバー4人と先生2人が来海し、絶滅危惧種の状況の確認と砂浜のマイクロプラスチックを収集しました。今後プラスチック種類などを分析し発生源を調べたいとのことです。最近では学校での環境教育もしっかりと行われるようになっていますが、NPOとしても、若い人たちが環境問題を実感できるよう支援をしていきます。

また、引率の先生から「地域で様々な活動している人から話を聞く機会を学生に作っているので、今回お願いしたい」との話があり、9月14日に鶴翔高校1、2年生全員（143名）に対して、初めてとなる掲題の講座を開催しました。鶴翔高校は市外から通う生徒も多く脇本海岸をよく知らない学生もいるようです。この機会に身近で大切な自然だと認識してもらえたら幸いです。（大川内、本脇）

右写真は体育館で講座が始まる前の様子



マイクロプラスチックを回収する様子



海岸の景観と絶滅危惧種を脅かす「海岸への車両進入」発生

堤防や岩に落書きがあり海岸の景観が損なわれ、NPOで消したことを以前報告しましたが、今度は砂浜へ頻繁な車の乗入れが発生しました。脇本海岸は過去に砂浜へ進入トラブルがあり、進入禁止が海岸周辺住民には周知のことです。また市の環境基本計画の「市民の取組目標」に“海岸に車を乗り入れないようにしましょう”と明記されています。海岸の出入り口は閉鎖されているにも関わらず、この車両（バギー車）はなんと堤防沿いに砂を盛り上げたところから何回も砂浜に進入して、絶滅危惧種のシロチドリが餌場としての場所を走り回り、さらには県の準絶滅危惧種であるオカヒジキを踏みつけていました。レジャーのために車両進入できるウミガメが上がる海岸を私たちは知りません。とても残念な行為を無くすべく、事業者には自覚して頂きたいし、行政には自然環境保護の視点から適切な対応を求めています。



美しい砂浜に刻まれた無残な爪痕
(約2Km先の岩船海岸まで続いていた)



海の様子を見るだけのために砂浜を走るバギー車



サップする人を乗せてシロチドリの餌場を横切るバギー車



バギー車が故障して海岸に1晩放置されたサップボード
(この時オカヒジキが踏まれていることが判明)